

■はじめに

校園長の皆さん、こんにちは。「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」この時期になると、毎年この言葉を思い浮かべます。今年の人事異動は、16名の校園長がご退職され、新たに19名の皆さんが校園長に昇任されました。

激動の時代、グローバルな時代と言われて久しいですが、校園長の皆様とともに新しいメンバーと一緒に、難局を乗り切りたいと思います。どうぞ、今年1年間よろしくお願いします。



■教育が果たさなければならない使命

【海外のICT事情】

先程、「グローバルな時代」と言いましたが、実際の生活の中で実感することが少なく、今日、明日の問題だと感じていないところがあります。

たとえばトルコ共和国では、2011年から2014年までの4年間で、公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校の全教室に無線LANを整備し、電子黒板を設置するだけでなく、多額の予算を投じて、全小学校児童1600万人にタブレットを導入するという国家プロジェクトを立ち上げると聞きました。この政策は、「ファーティフ・プロジェクト」と呼ばれ、トルコの教育に革命的な変化をもたらそうとするものです。タブレットは、海外から購入するのではなく、国内に工場を建てて生産し、経済効果も上げていこうという国策だとも聞きました。

一方、世界のフューチャースクール*¹の先進国のシンガポールでは、子どもがICT機器を鉛筆やノートのごとく「道具」として授業で使いこなし、教師は、ファシリテーター*²として、子どもを支援しているそうです。

様々な分野で情報化が進み、国と国との垣根がますます低くなり、情報や知識は瞬時に世界を駆け巡ります。そのようなボーダレス化したグローバルな時代において、自らの能力を発揮し、たくましく生きる子どもを育てていくために、私たちは何を大切にし、どのように子どもを育てていけばいいのかと言うことが、われわれに突きつけられている課題だと思っています。

【注目されるAIU】

話は変わりますが、みなさんは、AIUという大学をご存知でしょうか。秋田県の公立大学で、創立は2004年、学部は「国際教養学部」のみの単科大学です。1学年は175名で、総数でも800名に満たない小さな大学です。一条高校より小さな規模のこの大学が大変注目を集めています。

就職内定率は毎年ほぼ100%です。就職先には、「モノづくり日本」を支える企業、商社、金融業など多岐に渡っており、人材育成力の面でも、教育力の面でも、大変高い評価を受けています。

AIUが高い評価をされる理由は、いくつかあります。授業はすべて英語で行われ、学内ではすべて英語で話し、学生は外国の先生に触れながら生活をしています。また学生の中の20%ぐらいは留学生です。入学1年目は全員が寮に入り、在学中に1年間の海外留学が義務付けられてい



AIU校舎遠景

国立大学法人 国際教養大学 (AIU) 提供

ます。大学の心臓でもある図書館は、24時間開館しています。

授業は1クラス20名以下の少人数で行われ、ディスカッションやディベートなどを中心に、学生同士が英語で議論しながら進んでいく形式です。発言しなければ、授業に参加できない中で、毎日鍛えられていくのです。そして、授業の中で重要視されているのは、「リベラルアーツ」と呼ばれる教養教育です。「世界の中で生きている日本人」であることを自覚し、自分が日本人であることを発信できるようにと、学生には明治時代に新渡戸稲造が英訳した『武士道』を必読書に課していると聞きます。



24時間開館のA I U図書館
国立大学法人 国際教養大学 (A I U) 提供

この大学の創始者であった中嶋嶺雄さんは、「これからのグローバル社会を生きていくためには、確固としたアイデンティティをもち、英語をはじめとする外国語の能力を磨き、コミュニケーション能力を高めることが必要であり、幅広く深い教養と批判力（クリティカル・シンキング*3の力）を身に付けた人材の育成が必要だ。」とおっしゃっているのです。

これからの世界は間違いなく、国と国との垣根が低くなり、ボーダレス化したグローバルな社会になっていきます。そのような社会で、自分を見失うことなく、しっかりとした目標をもち、困難に立ち向かい、自分の力を発揮していく、このような人材を育成していくことが、教育の果たすべき使命だと思います。

■学ぶ者のアイデンティティ

では、このようなグローバルな社会に立ち向かっていく日本の若者は、どのような意識をもっているのでしょうか。この表は、平成24年度に日本青少年研究所が、アメリカ、中国、韓国、日本の4か国の高校生を対象にして実施した「高校生の進路と職業意識に関する調査」の結果です。

「人生、目標がないと暮らしていけない」に対する回答

	日本	アメリカ	中国	韓国
とてもそう思う	64.0%	79.6%	85.7%	84.1%
まあそう思う				
あまり思わない	36.0%	15.2%	13.1%	15.8%
全くそう思わない				
無回答	0%	5.2%	1.2%	0.1%

⇒ 「人生、目標がないと暮らしていけない」という質問では、各国とも80%前後が「そう思う」と答えているが、日本は、65%にも達していない。

「やりたいことにいくら困難があっても挑戦してみたい」に対する回答

	日本	アメリカ	中国	韓国
とてもそう思う	72.5%	85.2%	88.2%	88.8%
まあそう思う				
あまり思わない	27.4%	8.8%	10.6%	11.1%
全くそう思わない				
無回答	0.1%	6.0%	1.2%	0.1%

⇒ 「やりたいことに、いくら困難があっても挑戦してみたいかどうか」という質問では、アメリカ、中国、韓国は、85%以上が積極的に捉えているが、日本では、「とてもそう思う」「まあそう思う」を合計しても、72.4%と、あまり高くない。

高校生の進路と職業意識に関する調査報告書より(財団法人日本青少年研究所)

このような、子どもたちの実態の中で、本当に「グローバル社会を生き抜く力」をつけていくためには、従来の日本の子どもたちが受けていた暗記型の知識理解の力だけを育んでも通用しな

いのではないのでしょうか。AIUの創始者であった中嶋さんがおっしゃるように、英語をはじめとする外国語の能力を磨き、コミュニケーション能力と幅広く深い教養や批判力（クリティカル・シンキングの力）に加え、「アイデンティティ」を確立することが大切だと思います。

それがいつも皆さんにお話している「奈良で学んだことを誇らしげに語ることができる」ということだと考えています。自分の生まれ育った地域を誇りに思い、奈良には、素晴らしいものが残されていて、それらを人々が大切に守り、受け継いできたということを感じ、そこに込められた願いや人々の努力に思いをはせることが大切だと思います。奈良市が推進している世界遺産学習での学びとは、高い目標をもち、困難に立ち向かってきた人々の営みを学ぶということです。奈良の先人たちを誇りに思い、今度は自分がそれを受け継いでいこうとする、このことを奈良の子どもたちに考えさせてほしいと思います。それが、奈良で学ぶ者のアイデンティティとなっていくのだと思います。

■終わりに

奈良市が行っている「ならの子ども学力向上プロジェクト事業」の1つとして、平成25年2月に「教育フォーラム」を開催しました。その全体会の中で、ご講演いただいた、文部科学省の全国的な学力調査に関する専門家会議の座長である梶田叡一先生と、お話をする機会がありました。梶田先生は、「これからのグローバル社会では、いわゆる確かな学力と言われるような力だけでなく、激変していく社会に対応できる柔軟な適応力や幅広く深い教養と批判力、そして、日本人としての自覚、つまり、アイデンティティをもつことが大切だ。」とおっしゃっていました。

ご自身の著書「和魂ルネッサンス」（あすとろ出版発行）の中で、次のように記されています。



平成25年2月22日
ならの子ども学力向上プロジェクト事業
教育フォーラムより

伝統文化をきちんと継承する努力を怠っていると、日本人も日本社会もこのままでは「根なし草」になってしまうのではないかと思われるのです。「根なし草」には明るく力強い「未来」は、望めません。特に現代日本社会の若い人たちの精神状況を見る時、このままでは日本は行き詰まるな、そしてやがて亡びてしまうな、という危惧を持たざるをえないのです。

私も同じ考えです。だからこそ「奈良で学んだことを誇らしげに語ることができる子の育成」だと考えるのです。奈良市が進めている教育は、これからのグローバル社会をたくましく生き抜くための、太くてしっかりとした根っこづくりの教育といえます。奈良の子どもたちが、根なし草のように、自分のアイデンティティをもたず、グローバル化の波に翻弄されていくことのないよう、ぜひとも、奈良で学んだことを誇らしく語ることができる子どもの育成をよろしく願います。

*¹ ICTを使い、児童がお互いに学び合い、教え合う「協働教育」を推進する学校

*² 議論をスムーズに調整しながら合意形成や相互理解に向けて深い議論がなされるよう調整する役割を負った人

*³ 証拠、論理、合理性、公平性にもとづいて概念化・分析・判断する思考